

本所歯科医師会の学校歯科・口腔衛生運動

——特に「良い歯の日」の先駆的实施等について——**

森 山 徳 長**

1. はしがき

本邦においては歯科医師会結成の当初から、学校歯科活動・口腔衛生運動が盛んで、それが必然的に一般大衆の歯科衛生啓蒙に大いに役立ってきた歴史的背景がある。

旧東京市本所区においては、大正4、5年ごろに歯科医有志が相寄り『土筆（つくし）会』という名称で、学童の齲歯予防対策を討議した。その結果として、各小学校に呼びかけて口腔検査を実施した。会員には入江義次、五十嵐庭治、小椋善男らがいた。土筆会とは、歌人である小椋善男（のちの日本歯科医師会長）の命名であった。

大正9年東京市歯科医師会本所支部時代に、横須賀権次郎支部長は卒先本所区議会に請願して、小学校に歯科の嘱託医制度を設けるよう運動し、次の入江支部長時代には、その実現を期して、積極的に土筆会々員の無料奉仕で担当歯科医を出張させ、定期的に口腔検査を開始した。その結果大正12年には、区内小学校に歯科嘱託医が置かれるようになった。

さらに児童の口腔検査の結果をもとに、『良い歯の日』コンクールを計画した。関東大震災の前夜、準備会が深更まで行われたが、震災のためその計画は延期された。その2年後大正14年11月17日、区内3万の児童から各校で予選を通過した優

良歯牙を持つ児童1千余名を、本所高等小学校（現両国中学校）に集め、当時の歯科界の権威者5氏を審査員に依頼して最終審査を行い、順位を定めた。この良い歯の日が、のちに昭和3年『ムシ歯予防デー』運動へと発展したのである。

本稿では、本所歯科医師会、本所学校歯科医会の発展の歴史¹⁾を概観し、また、日本の学校歯科保健活動の歴史を参照しつつ、60年前の本所の地で発祥を見た、日本の口腔衛生史上特筆すべき事業につき報告したいと思う。

2. 本所歯科医師会小史

本所歯科医師会の前身は『江東歯科医会』であった。明治42～3年頃、同業有志が相寄り会合したのに始まり、本所の岡村五十一郎[※]、²⁾横須賀権次郎、児玉藤平らが中心であった。最初は6、7名であったが、大正となった頃には深川、亀戸方面の会員も次第に参加するようになり、24～5名になったという。

会員が増加したので本所が独立して、『本所歯科医会』となり、総会を開いて本会の誕生となった。その初代会長は岡村五十一郎であった。幹事は小島宗久、入江義次、鈴木政次郎の3名、大正6年秋であった。大正9年東京市歯科医師会が中央に組織され、各区の会は支部として、これに統合することとなった。当時の本所区の会員は設立総会を開き、支部長に横須賀権次郎を推し、幹事に長谷川保定、入江義次、岡村正晴の3氏が当選し、任期は2年であった。

* A Pioneering Movement of the Tokyo Honjo Dental Association on School Dental Health and Public Oral Hygiene

** Norinaga MORIYAMA (Tokyo Dental College 東京歯科大学)

本稿要旨は、第142回例会（1983. 6. 17 於モリタ・ホール）で口演した。

※注：明治29年11月調査・日本歯科医会会員名簿東京之部に、深川区東元町一番地 岡村五十一郎とある。

第2次支部長には入江義次、幹事に小椋善男、谷津源治、本多福雄が当選した。

大正12年9月1日、関東大震災に際会した。当時の支部長は入江義次、幹事は、前記3名、会員数75名であった。罹災会員（家屋焼失）73名、焼失を免れたもの2名、一家全滅2名、家族犠牲者の最も多かったのは長谷川家で一家11名、外2家は数名であった。

第3次支部長は入江義次、幹事は五十嵐庭治、鈴木政次郎、斎藤一郎である。（大13.4～15.3）

大正15年9月14日、『歯科医師会令』により、東京府歯科医師会が設立され、理事は入江義次、保険部理事に五十嵐庭治が就任した。

東京府歯科医師会東京市本所支部となってから

第1回支部長 熊沢専一郎（大15～昭4）2期

第2回支部長 五十嵐庭治（昭5～6）

第3回支部長 白川 享（昭7～8）

第4回支部長 松田 倉吉（昭9～14）3期

第5回支部長 広瀬 為夫（昭15～17）

昭和18年1月、勅令により東京都歯科医師会が設立された。入江義次は本部理事に推された。

東京都歯科医師会本所支部設立とともに、

第1回支部長 横須賀権次郎（昭18.1～19.12）

第2回支部長 白川 享（昭20.1～20.12）

昭和20年3月10日、本所区は未曾有の戦災に遭遇した。会員数128名、罹災会員124名、焼失を免れたもの4名、（上竹、栗原、竹内、井上の諸氏）一家全滅7家族、犠牲会員19名、家族に犠牲者を出した会員、河田、入江、武井、松本、安藤の諸氏。

昭和20年9月現在の会員数は11名となった。しかし、實際上診療に従事したものは7名に過ぎなかった。

昭和20年12月支部長の任期満了となり、本部よりの配給品の多かった当時であったから、開業在住の会員による役員の構成を希望された。支部役員に本部役員兼任を認めていたので、支部長に入江義次、副支部長に上竹義雄、幹事に関根卓、井上幸恭が就任した。

昭和22年11月28日に、社団法人東京都本所歯科医師会が創立され、翌23年1月28日に社団許可を

受けた。設立出願署名理事は入江義次、上竹義雄、熊谷真、関根卓、井上幸恭の諸氏であった。

社団法人東京都本所歯科医師会

（昭23.1～24.3）

会長 上竹義雄 副会長 関根 卓

幹事 井上幸恭、入江義伸、栗原芳郎

昭和24年3月21日に改選が行われ

（昭24.4～26.3）

会長 入江義次 副会長 関根 卓

幹事 井上幸恭、栗原芳郎、浜本治七

監事 熊谷 真、五十嵐庭治となった。

昭和28年東京都歯科医師会は各区における歯科医師会を全部支部にするため、支部制度設置委員を指名し、委員会を構成したが、入江義次はその委員長に推された。

したがって、全部が支部となるならば本所もこれに従うより他ないとのことで総会を開いて支部となり、今日に至っている¹⁾。

3. 本所学校歯科医会小史・学校 歯科保健活動小史

最初に述べたように、大正4、5（1915～6）年頃、歯科衛生啓蒙の手段として土筆会有志が学童の口腔診査を行ったのが、旧東京市本所区における学校歯科保健活動のはじまりである。

一方、日本学校歯科医会編の学校歯科保健活動年表（昭和57年10月）³⁾によれば、1891（明24）年5月に直邨善五郎が三重県下4小学校の口腔検査をはじめて行い、翌1892年11月には三重県下の4つの高等小学校の検査成績発表が行われたという記載がある。したがって三重県が学童の口腔検査の発祥の地といえる。

制度的には、1879（明12）年公布された教育令が1885（明18）年の改正で『文部省学生生徒の体格検査の様式を定め、直轄学校に対し活力検査を行い、その結果を報告するよう指示』（学校身体検査のはじめ）された。直轄学校の活力検査結果がはじめて発表されたのは1894（明27）年1月7日であり、また同年5月、東京市麹町区に学校医が置かれている。

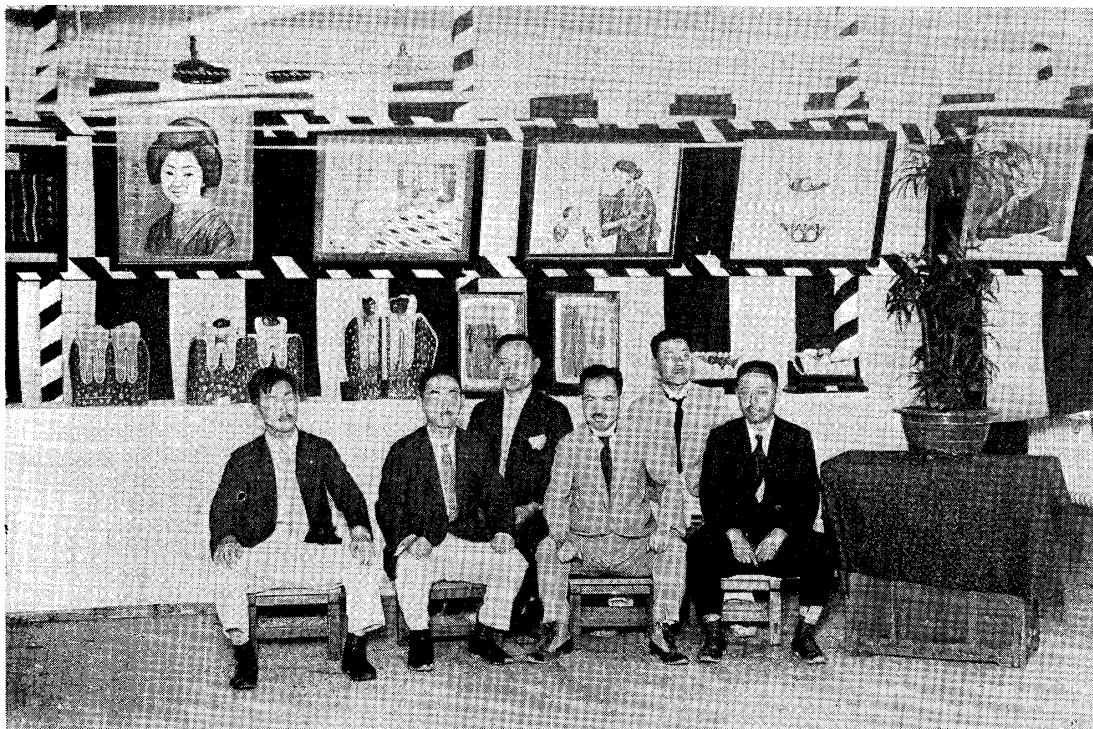


図 1 Oral Hygiene Exhibit in Midori Primary School (1925). 大正14年緑小学校で行われた口腔衛生展。左より五十嵐，小椋，横須賀，入江，松田，熊沢の諸先生

1998（明31）年1月12日，勅令2号で公立学校に学校医をおく規定が公布された。日本歯科医会は，これに呼応して，同年4月27日の通常会において，血脇守之助，広瀬武郎，青山松次郎，藤島太麻夫らが文部省に対して『学校医に歯科医師を加えること』の建議を行うべしと決議し，そのように実行された。この結果か，1901（明34）年10月25日付で東京市麹町区内6小学校に，学校身体検査臨時補助医員として歯科医師が委嘱された。これが，正式に歯科医師が口腔検査にたずさわった始まりである。

歯科医団体の悲願であった歯科医師法が，1906（明39）年5月1日付で制定・公布されると，各地で学校保健活動が活発になり，各県衛生博覧会に歯科の出品が行われたり，独自に歯科衛生展覧会や講演会，歯ブラシ訓練等が歯科医師会によって主催された。

1917（大6）年になって，本所区歯科医会が主催して講演会が，9月20日より10月8日にわたって行われたことが年表に記録³⁾されている。これは前項に述べた本所区歯科医会が発足した年を記念

して行われたものと思われる。また年表によれば，1921（大10）年5月には東京市本郷区学校歯科医会が設立されている。

本所区では，それより早く1920（大9）年，東京市歯科医師会本所支部の成立とともに，入江義次，五十嵐庭治他18名が『学校歯科嘱託医会（土筆会）』を作り，無料奉仕で学童の口腔診査を行った。これが『本所区学校歯科医会』のはじまりである。

4. 本所区歯科医師会の口腔衛生運動

明治末期，大正時代の歯科医師は，ようやくかち得た業権拡張を目的とし，大衆啓蒙のため口腔衛生運動を熱心に展開した。東京市歯科医師会本所支部も例外でなく，土筆会を中心に活発に活動した。本所独自の計画として，次の2つの計画は特に成功し世間の注目を集めた。

（その1）優良歯牙表彰—『良い歯の日』

本所区の学童の中から優良歯牙の者を，各校の歯科嘱託医によって各級男女2名ずつを予選し，特に5名の審査委員を委嘱してあらためてその

審査を行い、優良なものを表彰する計画であった。この計画の名称を『良い歯の日』と掲げて大正14年11月7日に実施した。

優良歯牙表彰のわが国における最初のものであった。審査委員は当時における歯科界の権威下記5氏であった。

奥村 鶴吉氏 後の東京歯科大学長

加藤 清治氏 後の日本歯科大学長

川上為次郎氏 日本大学歯科教授、後の東京都
歯科医師会長

高津 式氏 後の日本歯科評論社主幹

岡本 清纓氏 後の愛知学院大学歯学部部長

支部の事業として上記の名士を依頼できたことは大きな熱意による事であった。

当日は審査員各位は白衣をまとい、ミラーを手に、いちいち審査に当られた。

なお、優良歯牙表彰者に対しては表彰式を行い、これに表彰状と記念メダルを贈った。メダルの図案は広く一般から募集し専門家によって審査選抜が行われた(図2)。そして当選者には賞金が贈られた。この計画は当日発行の3大新聞に3段ぬきの記事となって掲載され、『世界最初の試み』と推奨された。

また加藤審査委員は皇室の歯科御用掛の関係から当夜の祝賀会席上のテーブル・スピーチで「今回の計画『良い歯の日』のことは皇后陛下の御耳に達している」と報告、一同を喜ばせた。

(その2) 大相撲幕内力士歯型展覧会

口腔衛生普及運動の一環として、大相撲幕内力士のほとんど全部の上下顎歯の歯型を作成し、『丈夫な身体に強い歯』と題して展覧会を開催した。地元本所っ子の注目をひくこの計画は、なかなかの好評を拍した。

入江は当時大関であった清水川関と懇意な関係上、会員数名の協力応援によって、九段における花相撲興行中の各力士の協力により、上下顎の印象を採得して作成した。これらの模型は、最初本所支部主催の口腔衛生展覧会に出品し好評であったので、東京と大阪の松坂屋において1カ月にわたって陳列された。

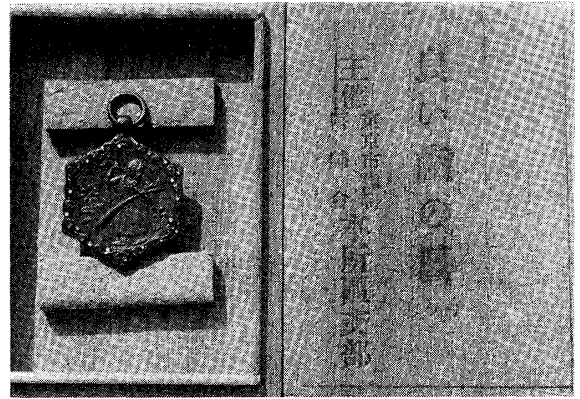


図2 “The Day for Good Teeth” medal sponsored by the Honjo Dental Association, 1925. “良い歯の日”記念メダル、東京市歯科医師会本所支部主催 1925(大14)年11月7日

5. 良い歯の日発祥記念碑の建設

本稿の基礎となった情報は、本所歯科医師会五十年史編集委員会(委員長森山徳長)が蒐集した資料、古老の談話等である。写真等も関東大震災以前のものは全く焼失してない。一番古い写真が1925(大14)年の良い歯の日のものである(図1, 2)。

その後昭和11年の『ムシ歯予防デー』のパレード風景は、東京都歯科医師会70年史にも転載(p. 230)されており(図3)、その時のものと思われる両国駅2階レストランでの会員の記念写真(図4)は、50年史に未使用であったが、ここに掲げることとする。

ずっと年代が降って、1964(昭39)年1月23日、入江義次先生藍綬章褒受章記念祝賀会が本所歯科医師会(会長篠田増雄)主催、東京会館で盛大に行われた。その際筆者が撮影したスナップには、大正期の本所歯科医師会の幹部で口腔衛生運動に熱心だった土筆会のメンバー、元老諸先生の元気な笑顔が並んでいる(図5)。

1966(昭41)年11月23日本所歯科医師会(会長井上幸恭)は創立50周年記念式をホテル・ニューオータニで盛大に挙行了。『五十年史』はそれを目標に発刊された。同時に会の継続事業の一つとして、『良い歯の日発祥記念碑』の建設が決定



図 3 Parade of Honjo Dental Association on “Dental Caries Prevention Day,” 1936. 「ムシ歯予防デー」のパレード風景 昭和11年



図 4 36 members of Honjo Dental Association on Caries Prevention Day, 1936.
「ムシ歯予防デー」パレードに参加の36名の会員（図3の日と思われる）。

され、1968（昭43）年10月10日完成した。

入江義次先生揮毫になる碑文は以下の通りである。

建設の由来（碑文）

歯科界の黎明期に、本所歯科医師会は、入江義次、五十嵐庭治君等の提唱で、口腔衛生普及運動を起した。その始は、奥村鶴吉、加藤清治、川上為次郎、岡本清纓、高津式の諸先生に依頼して、当時の本所高等小学校（現墨田区立両国中学校）で区内学童の口腔診査を実施した。会員の積極的活動とライオン歯磨の後援によってこの運動は、日本歯科界最初の企画として当時の新聞に報道された。この

時学童数名を選び、表彰状と「良い歯の日」と記したメダルを贈った。大正十四年十一月七日の事である。本会の唱導は多くの反響を呼び後年「ムシ歯予防デー」（現在の歯の衛生週間）として発展する所となった。この由緒ある事業を永く後世に伝える様に、その第一回表彰式を行った地に記念碑を建てるものである。

昭和四十三年十月十日

東京都本所歯科医師会

6. むすび

日本の歯科医師団体は、結成の当初から一般大

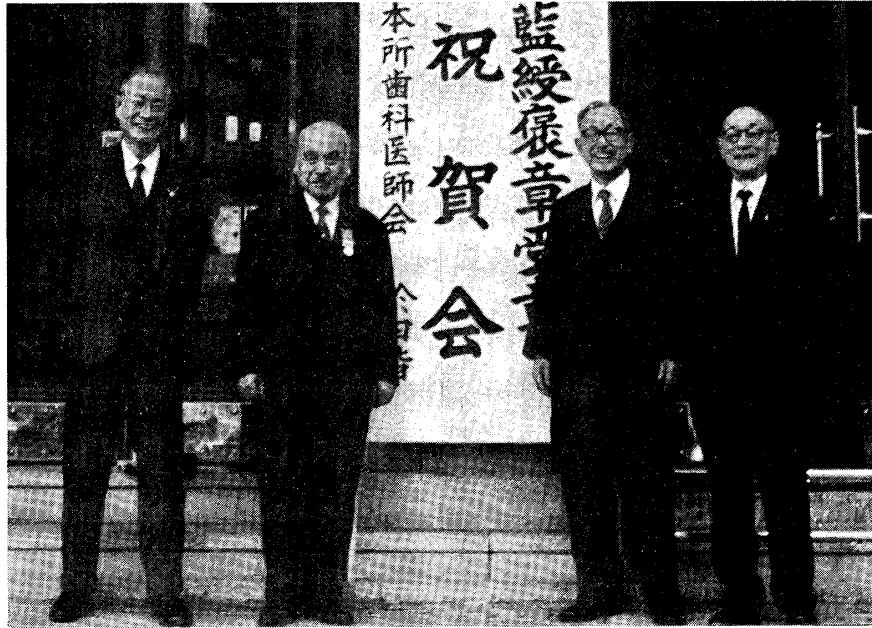


図 5 The then “Tsukushi-kai” (Bottle-brush club) members. from left, Drs. Shirakawa, Irie, Igarashi and Ogura. 1964. 1. 23. 入江先生受章式における往年の土筆会のメンバー。左より、白川、入江、五十嵐、小椋の諸先生 昭39年1月23日（筆者撮影）

衆に対する歯科衛生の啓蒙に熱心であった。それは業権拡張に直接結びついていたからである。旧東京市歯科医師会本所支部は、その前身1917（大正6）年結成の本所歯科医会の時代から、有志が土筆会を結成して各学校に呼びかけ口腔検査を実施した。大正12年には嘱託医制が実施され、土筆会は本所学校歯科医会に発展した。但し法人登記または公刊雑誌等に記録を残していなかったことは残念である。直ちに『良い歯の日』の計画を立案し、大震災前夜も準備の会合を深更まで持った。しかし天災のためその実現は1925（大正13）年11月17日となった。

これは世界初めての企てと日刊新聞紙上に大々的に取上げられ、のちに日本歯科医師会が1928（昭和3）年にスタートした、『ムシ歯予防デー』運動に発展する火種となった。

この本所歯科医師会の活動は、日本の学校歯科、口腔衛生運動に先駆的役割を果たしたものとして、高く評価されるべきと思う。



図 6 Epitaph of the the monument of “Day of Good Teeth.” 良い歯の日発祥記念碑（建設の由来碑文）

引照文献

- 1) 本所歯科医師会編：本所歯科医師会 50 年史，東京，1966（昭41）年11月
- 2) 東京都歯科医師会編：東京都歯科医師会70年史，東京，1968（昭43）年3月
- 3) 日本学校歯科医会編：学校歯科保健活動年表，1982（和57）年10月

A PIONEERING MOVEMENT OF THE TOKYO HONJO DENTAL ASSOCIATION ON SCHOOL DENTAL HEALTH AND PUBLIC ORAL HYGIENE.

Norinaga MORIYAMA, D.D.S., D.M.Sc., F.I.C.D. Tokyo, Japan

Around 1915, a group of dentists of the Honjo Dental Association undertook the caries prevention campaign for the primary school children, and named the volunteers themselves as "bottle-brush club". Among them were Drs. Yoshitsugu Irie, Teiji Igarashi and Yoshio Ogura who later became the leader of th Japan and the Tokyo Dental Association.

When the Tokyo City Dental Association was inaugurated in 1920, the Honjo branch held a big Dental Hygiene Exhibit from September 20 to October 8 (Fig. 1).

They were very enthusiastic for such a project, because the education of dental hygiene for the general public had closely connected to the expansion of their professional rights.

In 1923 formal appointment for school dentists in Honjo-ward, City of Tokyo, ensued which was the begining of the Honjo School Dentists' Association.

This organization immediately developed a unique public dental health program "The Day of Good Teeth". School dentists preliminarily selected a boy and a girl contestant from each class who had a good, healthy dentition. Then on November 17, 1925, the final contest was performed by five prominent professors and specialists at the Honjo Higher

Primary School (Now Ryogoku Junior High School) under the sponsorship of the Honjo Dental Association and Honjo School Dentists' Association.

Those who were admitted to pass the contest were officially commended and medals of "The Day of Good Teeth" were given to them (Fig. 2).

This program attracted the attention of the journalism, and three major news-papers unanimously praised this as "the world first program", and this really became the fore-runner of the "Caries Prevention Day" which was started by the Japan Dental Association in 1928.

Figure 3, 4 shows the automobile parade of the caries prevention day and the members of the Honjo Dental Association in 1936.

On November 23, 1966, the Honjo Dental Association-celebrated her fiftieth anniversary at Hotel New Ohtani. In memory of the effort of pioneering achievement on school dental health program the Association constructed a monument of "The Day of Good Teeth" in the site of the then Honjo Higher Primary School on October the tenth, 1968.

The manuscript of the epitaph was written by Dr. Yoshitsugu Irie (Fig 6).